

議題 北九州市立美術館運営評価について

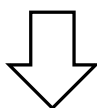
評価項目1: 作品 ～資料収集・環境管理・保存～

外部評価

	評価	理由
① 実績に対する評価	収集、修復等については評価できるが、データベース整備については懸念がある。	<p>○資料収集については、限られた予算で自らの企画展に出品された作品を優先して購入する点は高い評価に値する。</p> <p>○地域と関係の深い作家を重要視して、その作品資料を重点的に収集していくことは、美術館活動の充実、基盤づくり、後世に向けた継承として不可欠の事柄であるから、こうした作家の作品資料を収集保存に力を入れている日常活動は大いに評価する。</p> <p>○緊急性の観点から修復作品を変更したことは致し方ない。収蔵庫を自分たちで整備管理するという意識は作品保全の基本だと思うので、その姿勢は評価する。</p> <p>○作品データベース等については計画通りに進捗しておらず、今後の取組が懸念される。</p> <p>○データベースに関する目標設定があいまいで、評価しにくい。</p>

	妥当性	理由
② 自己評価の妥当性	【総合評定B】 妥当である。	○自己評価は妥当と判断される。データベースの整備については、予算(人件費)と時間を要するものである。入力作業など時間を要する作業に対する十分な手当て、及びより積極的な作業効率化を図るよう工夫されることを望みたい。

③ 運営改善の提言	<p>○データベース整備を始め、作品資料の収集・保存・公開にいたる一連の美術館活動を広く外部に訴えながら、その必要性を認識してもらうことを考えるべき</p> <p>○全作品の状態チェックを実施し、修復計画を立てる必要を感じる。状態チェック段階から修復家に相談することを検討してもよい。収蔵庫の環境整備については継続を希望する。</p> <p>○データベース整備の目的や活用(何のために整備するのか)を再度明確にして、人的、財源的パワーの制限のある中で、他の美術館の取組み状況等を踏まえて、計画の見直しを行うとともに、優先順位を明確にして、実施できることが可能な計画に見直す必要がある。</p> <p>○美術品等は市民の財産でありその管理は重要である。全国的に取り組みされている地方公会計の整備とも整合性を図りながら、総合的に検討していく必要がある。</p> <p>○寄贈品の受け入れについて、何が問題でどのように改正するのか教示してほしい。</p>
-----------	--



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に収蔵庫内の点検・清掃を実施し、作品の保管環境の安全を確認する。</li> <li>・再度、館内でデータベース整備の目的や活用方法を話し合い、実施可能な計画に見直すとともに、財政当局に粘り強く予算要求を行う。</li> </ul>

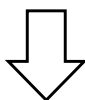
評価項目2: 公開～調査研究・展覧会～

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	評価できる。	<p>○森山、青柳の自主企画展を開催した意義は大きく、地域性と美術の関連を検証した意味ばかりでなく、北九州という自らの地域性がさらに広い視野の下でその意味を展開させる足場を固める良質の展覧会になったと思う。</p> <p>○他館と連携した展覧会も多様で、来館者に幅広い美術を提供してきたことも高く評価する。</p> <p>○調査が展覧会の形で実を結び、かつ次年以降についても計画的に調査が進んでいる点も評価する。</p> <p>○「美連協大賞・優秀論文賞」の受賞は成果が形として表れたもので喜ばしい。</p>

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	【総合評定A】 妥当である。	<p>○目標値クリアによるAだけでなく、内容的にもA評価は妥当である。</p> <p>○コレクション展、自主企画展の内容についての評価は妥当。</p> <p>○「森山安英展」、「青柳喜兵衛展」、「1968年展」は美術館関係者に対しては注目度の高い展覧会であったが、来館者数が少ないのが残念。来館者の満足度という視点の評価指標があってもいいと思う。</p>

③ 運営改善の提言	<p>○特に改善点として指摘することはないが、今後も地域と美術の関係は、調査研究、展覧会の方針、対象として大切にしていきたい。内容の多様性の維持も望まれる。</p> <p>○来館者の満足度への考慮は、わかりやすい企画立案につながるのでは。</p>
-----------	---



課題解決のために取り組むこと
<p>・引き続き調査研究を積極的に行い、テーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催すると共に、来館者の満足度を企画立案につなげることを検討していきたい。</p>

評価項目3: 交流～教育普及・地域交流～

外部評価

	評価	理由
① 実績 に対する 評価	評価できる。	<p>○新たなボランティア制度の構築はよかった。今後の活動に期待する。</p> <p>○ミュージアム・ツアーの参加者アンケートの結果が概ね良い結果であったこと、またギャラリートークや講演会の参加者が倍増したことは大変評価できる。</p> <p>○鑑賞教室や館内授業、ギャラリートーク等についての満足度調査ができていないのは残念。</p> <p>○ミュージアムツアーについて、生徒のアンケート実施については来館する前と後での美術館に対するイメージの変化がわかるものを作成すると、効果等が確認できるかと思う。ツアー後の再訪者数等のカウントが丁寧にしていることはとても有効な追跡調査と考える。</p> <p>○ミュージアム・ツアーについて、学校説明会を中止するとあったが、先生方の美術館来館に対する感覚が児童生徒にダイレクトに影響するので、代替する何かはあったほうが良いと思う。先生方が消極的な学校は、児童生徒も美術館での活動が消極的になることが多い。</p> <p>○ボランティア制度について、募集後の動きが外部からは見えないため評価が妥当かどうかは判断できない。</p> <p>○ミュージアム・ツアーは軌道にのり、当初心配されたマイナス的な意見は聞かれない。しかし、ガイドによって子供たちの興味や関心の引き出し方に違いがあるという声がある。</p>

	妥当性	理由
② 自己 評価の 妥当性	【総合評定 B】 妥当である。	<p>○評価指標を「参加者の満足度」と設定していながら、満足度を把握する手段を用意していなかったものがあるのは問題である。実績がそれなりに出てきているのでまだ良いが、「B」として今後の改善につなげてほしい。</p>

③ 運営 改善の 提言	<p>○評価指標をきちんと評価できる方法を、最初から考えておく。特にアンケートは多様な来場者のニーズや満足度を知ることができるよう工夫されたい。(％の満足度だけでなく、内容についての問いなども)</p> <p>○ボランティアの自主的な企画・運営をサポートする体制を整える。</p> <p>○ミュージアムツアーの充実と実施状況の情報発信 ・児童生徒向けの館内案内や鑑賞の手引、ワークシートなどの充実 ・参加者への事後アンケートの実施等による質や内容についての成果の把握と発信。</p> <p>○鑑賞教室や館内授業、ギャラリートーク等の参加者の満足度の把握。</p> <p>○ボランティア活動が見えることで、さらに積極的なボランティアの参加が見込まれる。</p> <p>○「初めて美術館に行く」という子供が多く、子供なりに緊張しているので、もっと笑顔で迎えてほしい。</p>
----------------------	---



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの自主性をサポートする体制を構築する。</li> <li>・ミュージアムツアーでは先生方にアプローチする方法を検討する。</li> <li>・ミュージアムツアー、鑑賞教室、館内授業等についての様々な意見を集約できるよう調査の方法の確立を検討する。</li> <li>・ミュージアムツアーのガイドについては、フォローアップ研修等を実施する。</li> </ul>

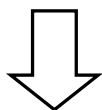
評価項目4: 広報～利用促進のための情報発信～

外部評価

① 実績 に対する 評価	評価	理由
	評価できる。	必要なことにきちんと取り組んでいる。

② 自己 評価 の 妥当 性	妥当性	理由
	【総合評定 B】 未実施の項目を認識した上で、 総合的には概ね良いと考える。	○評価の根幹部分が自己評価で「C」である時は、通常で考えて総合評価は「C」であるべき。 ○厳しく自己評価している。 ○アンケートは必要だが、クレーム以外は来場者のリップサービスの側面が強いように思う。アンケートの記入内容が、美術館の今後に活用できるものなのか疑問。さほどこだわらなくて良いのでは。

③ 運営 改善 の 提 言	<p>○アンケート結果を運営にどう活かすかは大きな課題。自由記入欄に書かれた文章を分析する事が今後につながるのではないかな。</p> <p>○共通チケットの発行は今後も拡充すべき。共通チケットや美術館連携企画は入館者増につながる。</p> <p>○本館は効果は期待できないが、分館における週末の開館時間の延長は効果があるのではないかな。</p> <p>○HPIに加え、ツイッターも英語や中国語で発信する。</p> <p>○国内向けSNS に遊びの要素を取り入れる。</p> <p>○SNSのフォロワー数、アクセス数に対する対策を行う。</p> <p>○文化・美術系のイベントに関心が高い有料老人ホーム向けの案内を行う。</p> <p>○バスツアーに対しては、他館と連携し、複数の旅行会社への提案してはどうか。</p> <p>○美術と飲食の楽しみは切り離せない。カフェの季節限定メニューやアルコール類の充実を図り、重点的にPRを。</p>
------------------------------	--



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートについては、館全体で検討し、実施する。</li> <li>・有料老人ホーム、年長者研修施設(周望学舎、穴生学舎)等への積極的PRを実施。</li> <li>・SNSの活用については、多言語化、内容について再度検討を行う。</li> <li>・分館の週末の開館時間延長については、一部実施する。(貸館展)</li> <li>・バスツアーについては、カフェとの連携を含め検討する。</li> </ul>

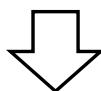
評価項目5: 環境～快適なアメニティ空間の演出～

外部評価

①実績に対する評価	評価	理由
	評価できる。	<p>○現場会議の実施、ミュージアム・ショップの充実への努力等評価できる。</p> <p>○アネックス棟防水工事等については、予算との関係で困難を伴う中、努力が見られる。</p> <p>○優先順位をつけ工事を実施されたことは評価できる。</p> <p>○入館者増は喜ばしい。</p>

②自己評価の妥当性	妥当性	理由
	【総合評定 A】 妥当である。	概ね計画通りに進んでいるため。

③運営改善の提言	<p>○警備、清掃等の現場会議については、これまでどのような問題、課題があり、連絡箱が設置されたのか具体的に教示されたい。</p> <p>○公共施設における防災力向上のため、例えば災害図上訓練等積極的に取り組んでほしい。</p> <p>○分館、黒崎市民ギャラリーについての記載もすべき。</p>
----------	---



課題解決のために取り組むこと
<p>今後も5ヶ年計画に基づいた取組みを続けていく。また、分館についても築15年を経過し、照明・空調等の設備について交換時期が来ている。本館と同様に修繕計画の検討を行う。</p>